

# 元留学生ら尽力で3校開校 240人卒業

中学校卒業後に進む5年制の高等教育機関で、出身者の多くがエンジニアとして活躍している「高等専門学校」（高専）。日本式の高専制度はモンゴルでも導入され、2014年に3校の高専が開校した。卒業生らは母国だけでなく、日本国内の企業や編入学した大学などでも仕事や勉学に励んでいる。

モンゴルでは1990年代以降、母国の産業発展に貢献しようとする若者が日本の高専に留学した。卒業生は帰国後に各界で活躍しており、教育大臣になった人もいる。彼らの間で自国に高専教育を導入する機運が高まり、日本でも高専の元教員らが呼応した。2009年には高専関係者などが「モンゴルに日本式高専を創る支援の会」を設立し、精力的に活動してきた。

14年になり、首都ウランバートルに国立モンゴル科学技術大学付属高専、私立の新モンゴル高専とモンゴル工業技術大学付属高専が開校した。19年6月には、1期生として3校で計142人が卒業している。

学メーカーや工場で働きたかったが国内には少なく、日本での就職を希望した。現在の仕事にやりがいを感じているといい、「もっといろいろな仕事を覚えて会社に貢献し、資格試験にも挑戦したい」と意欲的だ。

清水幸治工場長(51)は「真剣に仕事に取り組み姿勢は周囲から高く評価されており、すでに重要な戦力になっていく」と話す。同社もともと高専卒業生を多く採用しており、教育内容に信頼を寄せていた。全社でダイバーシティー(多様性)推進に力を入れており、昨年も新モンゴル高専の卒業生を採用した。

異なる発想などから、企業側が得るものも多いはず。モンゴルの産業を変えていく人材の育成に協力することは、必ずいい形で日本に返ってくる」と訴える。

モンゴルの高専を卒業後、日本の高専専攻科や大学に留学する人もいる。豊橋技術科学大学(愛知県豊橋市)では、学部3年に編入学した新モンゴル高専の1期生5人が学ぶ。

ガントゴス・ビルグーンさん(19)は子どもの頃から、モンゴルでの石炭暖房による深刻な大気汚染を解決したいと考えていた。「高専では大学より2年早く卒業研究をして、実践的な技術も身につくと知り、夢の実現により近いと思った」。日本式の高専で学ぶうち、日本の大学や企業でさらに経験を積みたくなった。将来は石炭に代わる環境に優しい安価な暖房方法を開発したいという。

# モンゴル 根づく 日本式高専

3高専の教育課程は基本的に日本と同じで、学生は日本語学習にも力を入れている。コロナ禍で来日できていない人が多いが、19年と20年の卒業生240人中、59人が日本での就職を決めている。東京都品川区は17

## 59人、日本での就職決定

年から、技術者不足に悩む区内の製造業がモンゴル高専生をインターンシップで受け入れる事業を展開。これまでに10人近くの就職が決まっているという。

全国51の国立高専を設置・運営する国立高専機構(東京都八王子市)は、16年にウランバートルにリエゾンオフィスを開設した。3高専の教育・研究力強化のため、モンゴル語の教材作成や教員研修などで支援を実施。日本企業への就職希望者にも支援している。

高専機構の谷口功理事長は「実験・実習の面では設備などに改善の余地はあるが、もともと真面目な学生が多く、いい人材が育っている」として、日本の企業には実務を通じてさらに力を伸ばせる丁寧な教育を期待する。「日本人社員とは



新モンゴル高専を卒業して豊橋技術科学大学に留学している学生たち  
19日、愛知県豊橋市



第一工業製薬の滋賀工場で働くエンフバヤル・エンフウヤンガさん=23日、滋賀県東近江市

高専では間もなく3期生が卒業する。モンゴル工業技術大学付属高専のムンフオチル・セルゲレン校長は「当初は新しい学校の説明に苦労したが、高専を正しく高等教育機関と位置づける法律が16年にでき、社会的な認知度が増した。モンゴルの豊富な土地と資源で産業を興して、日本との架け橋となる人材を育てていきたい」と話す。日本の高専や大学などの共同研究にも強い期待を寄せる。

モンゴルだけでなく、タイやベトナムでも高専や高専をモデルにした教育機関が設立されており、国立高専機構では様々な支援を行っている。(佐藤剛志)